



京都の特性や企業の強みを活かして顧客創造を図る事業プランを「知恵ビジネス」として認定しています。

# 知恵ビジネスプランコンテスト

## 野生動物と共存する社会を目指す

近江屋ロープ(株) 代表取締役社長 野々内達雄さん



無意識のうちに会社の暖簾を守ることは考えていたのではない。暖簾という重荷を降ろして、何か新しいことに挑戦しよう！ちようど、鹿や

猪が山里の田畑を荒らす獣害が増加していたことから、ベテラン社員と一緒に農林業の問題を解決する新商品開発に取り組みました。この背景には、ある方の人間学に導かれた私の経営実践の歩みがあり、本来人間が持つ根源的なエネルギーを引き出すことにつながりました。

### ―苦勞した点などはありませんか

野々内 先行商品もあり、最初はなかなか受け入れてもらえませんでした。そこで、私たちは大学の先生にお願いして商品の強度試験を繰り返し、100kgの猪が時速10kmのスピードでぶつかっても耐えられるという科学データを実証しました。開発から1年後、岡山県の自治体に採用されたときは、本当に嬉しかったですね。「どんなことがあっても全ての社員を幸せにする！」という気持ちで心の支えになったのだと思います。

### ―商品の特徴を教えてください

野々内 金網や電気柵をうまく組み合わせることで、猪や鹿だけでなく、これまで対応が難しかった猿の侵入を防ぐことが

### ―獣害防止ネット開発のきっかけは

近江屋ロープ(株)は、鹿や猪、猿などから農作物を守る「獣害防止ネット」を開発。今回のコンテストでは、多様な場所で自設可能である商品の独自性と、地域住民が主体的に設置することで地域コミュニティ再生を促す取り組みが評価されました。

野々内 1805年の創業以来、ロープや産業用資材、農林機械の卸売業を手がけてきましたが、ホームセンターの出現など、流通の仕組みが変わり、当社の業績はどんどんと悪化していきました。社員はなぜやる気を見せてくれないのか。沸いてくるのは、社員への不信感ばかり。ある時、ベテラン社員を呼んで叱責したところ、「社長は私たちを見捨てているのではありませんか？」と指摘され、大きなショックを受けました。



獣害防止ネット

できるようにになりました。当社商品の特徴は、持ち運びや組み立てが容易で、セルフ設置が可能なことです。住民自らの力で設置してもらうことで、「自分たちで地域社会を守る」という機運を醸成し、過疎化が進む農村部のコミュニティ再生にも貢献したいと考えています。

### ―今後の取り組みは

野々内 ベテラン社員の澁淵とした取り組みに刺激を受け、若い社員が商品の営業やデモンストレーションに積極的に参加するようになり、社内のムードが明るく、活気に満ちてきました。しがみついていた老舗の暖簾から少し離れてみることで、社内の雰囲気がいかに変わるんだということに気づかされましたね。今後は、京都の観光資源を鳥獣害から守る商品の提供など新たな需要を掘り起こしていきたいと思えます。



農村部のコミュニティ再生にも貢献

〈会社概要〉  
近江屋ロープ(株)  
網製造業、その他金属製品製造業  
京都市下京区七条通西洞院東入夷之町689  
☎075-361-2301  
<http://www.ohmirope.co.jp/>

## 知恵ビジネスへのチャレンジジャー募集中

「知恵のチャレンジネットワーク」に登録することで、知恵ビジネスに関する多くの情報を入手でき、人脈 異業種交流の世界が広がります。

■お問合せ 知恵産業推進室

☎075(212)6470